

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1121 2013年8月号

「第1回国有林モニター勉強会」を開催

四万十森林管理署管内の国有林において、国有林モニター勉強会を開催しました。

【詳細は2頁】



高性能林業機械プロセッサ作業状況の見学



七月一日、高知県中土佐町にある四万十森林管理署管内の国有林において、平成二五年度第一回国有林モニター勉強会を開催しました。当日は好天に恵まれ、四国四県から国有林モニターの方八名が参加されました。

開会にあたり井上業務管理官から「実際に森林・林業の状況を見て感じていただき、外部からの目線で意見等を伺いたい。また、この勉強会で国有林の取組について理解を深めていただ



モニター勉強会開会式

きたい。」との挨拶がありました。

最初の見学地は、中土佐町の国有林を眺望できる箇所において、複層林造成箇

所や魚つき保安林等、周辺国有林の特徴についての説明を行いました。

その後、間伐事業実施箇所へ移動し、森林整備事業の概要、間伐の重要性等の説明を行い、高性能林業機械のプロセッサが実際に稼働しているところを見学しました。

今回の勉強会に参加した



周辺国有林の特徴の説明

モニターの方々は、複層林施業等により多様で健全な森林へ誘導していく森林整備や、人工林の間伐事業箇所における高性能林業機械や間伐材の活用の取組等、実際に国有林に足を運んだ

ことにより理解を深められた様子でした。当日は大変暑い中でしたが、説明に熱心に聞き入っておられ、活発に質問や意見を述べられていました。

各地のたより



奇跡の出産立ち会い!?
土壌生物がくれた感動
ふれあい推進センター

まず、前回学習した「森林のはたらき」の復習を兼ね、「治山模型を使った水の浸透実験」を行いました。

七月九日、高知県宿毛市小筑紫小学校五年生一二名を対象に「治山模型を使った水の浸透実験」と「土壌にすむ生物」の出前授業を行いました。

生徒は、二班に分かれ、「森林のある山」と「森林のない山」に雨を降らせて、水の流れ方や土壌を通って出てくる水の濁り具合の違いなどを観察しました。

どんなに雨を降らせても
変わらない「森林のある
山」に対し、「森林のない
山」では家を巻き込みなが
ら土砂がどんどん流された
り、いつまでも濁った水が
出てくることに驚き、「森
林のはたらき」を実感して
いました。



ダンゴムシの出産を
見守る子どもたち

続いての「土壌にすむ生
物」の学習では思わぬ奇跡
が無い降りました。いつも
の通り一ヶ月前に埋設して
おいた「野菜」「枯葉」等
の観察を終え、校庭で採取
した土壌生物を顕微鏡で観
察していると、「このダン
ゴムシ、もうすぐ子どもが
産まれるよ。」との声。こ
の時は、「もうすぐ」がま
さか「今」とは思いません
でしたが、「出てくる、出
てくる」と子どもたちの驚
嘆の声に、あわてて電子顕
微鏡の映像をスクリーンに
投影すると、ひっくり返っ
たダンゴムシのお腹で白い
物体がモゾモゾ。

ゴムシを押し出そうとして
いました。それを見た子ど
もたちは、「頑張れ！、頑
張れ！、ミサコ（なぜミサ
コ？）」「赤ちゃん、もう
ちよつと」と。と食い入るよ
うに画面に向かって応援し
ていました。ダンゴムシの
お腹には二〇匹ほどの赤
ちゃんがいますが、一匹産
むのに五分ほどもかかりま
す。

観察終了時刻が来ても
「お願い、あと五分」と熱
い眼差し。このような瞬間
に立ち会うことは滅多にな
ることなので、出産を見守
ることにしました。

このライブ出産で、昆虫
も苦労して子どもを産むこ
と、ダンゴムシの赤ちゃん
は、産まれた瞬間から動き

回れること、そして何より
生命の神秘を学んでくれた
ようです。
後日届いた感想文では、
「ダンゴムシの出産」に感
動した様子を一生懸命伝え
てくれていました。

災害を防ぐために
最先端技術と森林の力
ふれあい推進センター



山川海のつながりについて

七月一日、高知県四万
十市立後川中学校全校生
徒一九名を対象に森林教
室を行いました。

「今の山」は航空局のA
RSA（航空路監視レー
ダー）や航空自衛隊の駐屯
地が設置されており、空の
災害を守る最先端技術の集
まる山です。

同校は、本年度防災指
定校となっており、一日
から二日間にわたり防災に
ついて学ぶと共に非常事態
に備えた宿泊訓練をするこ
とから、学校から「今の山」

まず、ハイテク防災に
貢献する「今の山」を紹

介し、縁の下の力持ち「森林」の持つ防災力や「山川海のつながり」について林内を散策しながら説明しました。

「今の山」の頂上から登山道を下りながら一時間ほどの体験学習でしたが、アスファルトを歩く感覚との違い、炎天下の外と違って涼しい林内など防災だけでなく「森林の働き」も実感していました。

この後は、高知県土佐清水市の竜串海岸で「海の学習」とのことでしたが、美しい海を見て、「今の山」で学習した「山川海のつながり」について再確認してくれたことでしょう。

二校で木工クラフト教室 〈ふれあい推進センター〉

七月一日、土佐清水市立中浜小学校で本年度初めて全校生徒二九名を対象に、七月二日、松野町立松野西小学校で本年度三回目の四年生二五名を対象に木工クラフト教室をそれぞれ行いました。

両校とも木工クラフトに入る前に、「木材の特徴」と題して、「大昔から木は生活の道具として使われてきたこと。」「木は方向によって強さに違いがあること。」「木はその特徴を生かしているいろいろな物に使われていること。」など学習し

ました。

その後、土佐清水市立中浜小学校の一年生から四年生までは、事前に各パーツに加工したヤマザクラの小枝などを使って『コロコロゲーム』及び『熊のストラップ』等を作製しました。

また、同校の五、六年生



木工クラフト教室
(中浜小学校)

木工クラフト教室 (松野西小学校)



と松野町立松野西小学校の四年生は、自分の想像力を生かし、鋸やナイフを使いヤマザクラの小枝等を加工して世界で一つだけの作品を作製しました。

大半の子どもは、鋸をあまり使用した事が無く、最初は緊張していましたが、

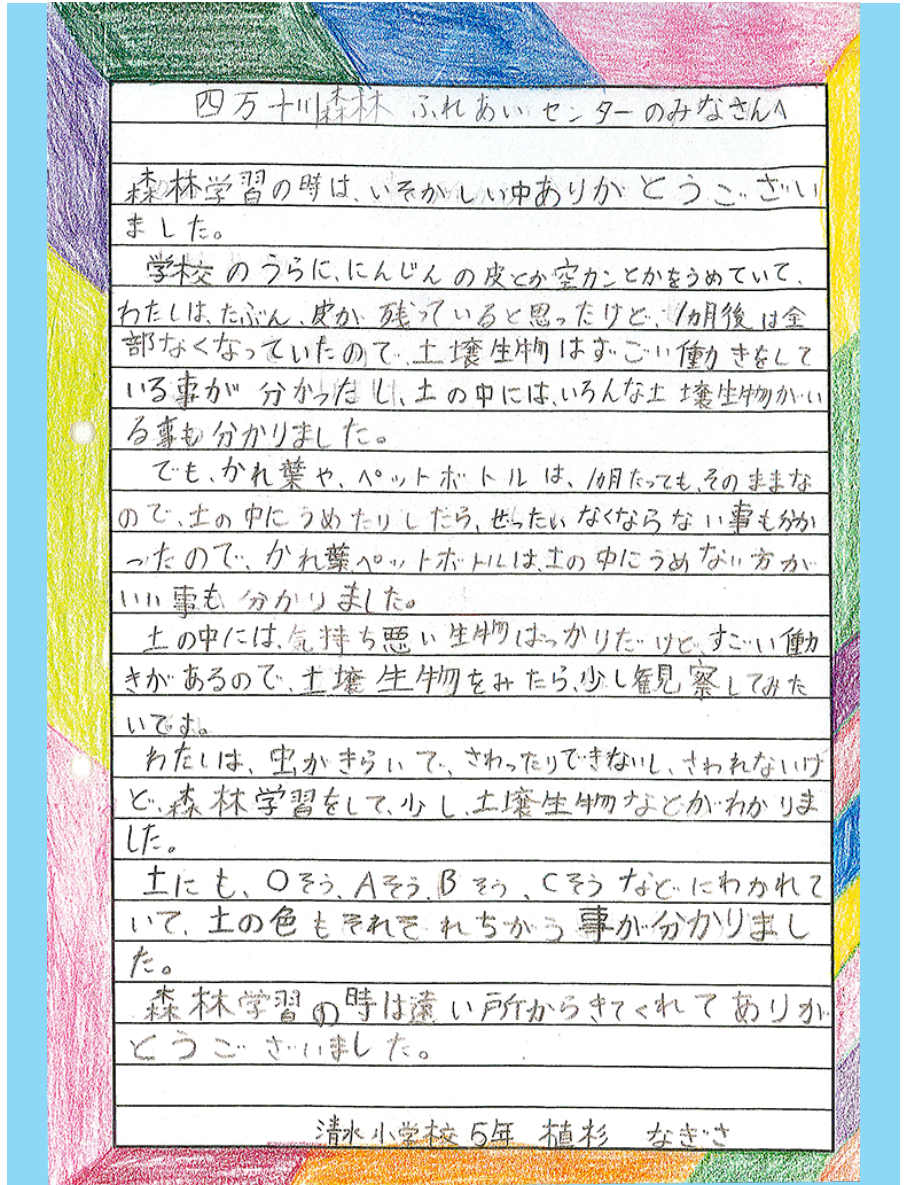
鋸を引く時の力加減などを教えるとすぐに覚え、次々と太さが違う小枝を一定の幅に切り揃えていました。

どの子どもも真剣な表情で取り組んでいました。子どもたちは完成した作品を見せ合って、満足そうな表情を浮かべていたのが印象的でした。

知ってびっくり、森林 や土壌生物のはたらき 〈ふれあい推進センター〉

六月二十八日、土佐清水市立清水小学校五年生五六名を対象に「森林のはたらき」と「土壌にすむ生物」の出前授業を行いました。

今回は、これまでになく大人数であったため、一時



間半という短時間で子どもたち一人ひとりが十分に観察や実習ができるか不安でしたが、みんな積極的に発言したり、きびきびと行動してくれたので、スムーズ

に授業を進めることができました。

「川」など漠然としたイメージしかなかった子どもたちも、「森林のはたらき」の講義後は、地球温暖化や土砂災害を防ぐ働きがあることを知り、森林、山の潜在

能力を見直したようです。一ヶ月ほど前に埋めておいた、「野菜」「枯葉」「ペットボトル」の観察では、先生の「すみませーん、草刈の時に誤って切ってしまいました。」の声と共に真つ二つに折れた「野菜」の看板を目にし、一抹の不安を覚えました。その不安は的中、「野菜」の場所は見つかりませんでした。「野菜」は土に還るため当然場所は確定できず、目印として埋めた空き缶は掘れども掘れども・・・。

あつて多種多様な虫たちに
出会うことができました。
普段は見過ごしてしまいがちな小さな生き物をじっくりと観察する機会を得た子どもたちは、気持ち悪いと言いながらも掘んで「毛が生えてる」「ヌルヌルする」と楽しそうに大騒ぎしていました。

その後の土壌生物の採取、観察では、さすがが大人数で集めてきただけ



土壌生物を探している児童



**ネット式大型罠い
ワナを追加設置**
〈ふれあい推進センター〉

当センターでは、四万十

森林管理署管内の黒尊山
国有林、愛媛森林管理署管
内の滑床山国有林周辺にお
いて、ニホンジカ被害地の
森林再生、植生回復事業に
取り組んでいるところで、
更に対策を推進していくた
めに、平成二三年度から罠
いワナによるニホンジカの
捕獲を実施しているところ
です。

今年度においても当地域
のニホンジカの森林への被
害が継続している状況にあ
ることから、引き続き両
地域でニホンジカの捕獲を

実施します。今年度は、昨
年度より二ヶ月捕獲期間を
長くし、六月に地元の猟友
会と委託契約を行い、来年
三月まで実施することにし
ました。

また、昨年度まで設置し
ていた小型と中型のワナに
加えて、今年度は、高知中
部森林管理署で捕獲実績が
高かった、ネット式の大型
罠いワナを六月に追加設置
しました。

この大型の罠いワナは、
周囲をシカ防護ネットで
囲ったもので、ネットの延
長は、黒尊山が約七〇m、
目黒山が約六〇mであり、
ネットの中が広くニホンジ
カが入りやすい構造となっ
ています。

なお、ここ二年間の捕獲

実績は、平成二三年度が
一一頭、平成二四年度が
二五頭と増加していますが
今回大型の罠いワナを追加
設置したことで、更に捕獲
頭数が増え、森林への被害
が少しでも減少することを
期待しています。



「黒尊山国有林に設置」



**親子サマー
キャンプに協力**
〈徳島森林管理署〉

七月二七日から翌二八日

にかけて、徳島県美馬市木
屋平の中尾山高原にて連合
徳島の主催による「親子サ
マーキャンプ」が開催され
ました。このイベントは徳
島県内の親子連れを対象に
毎年催されており、今年
は総勢九〇名が参加しまし
た。当署からは職員一〇名
が森林教室の講師として支
援を行いました。

開会式では事務局などの
挨拶に続き、当署から森林
・林業の現状や山村地域の
活性化、ニホンジカによる
森林被害などについて話を

しました。

開会式の後、木工クラフ
ト班と遊歩道ウォーキン
グ班に分かれて、それぞれ
でプログラムを実施しまし
た。木工クラフト班には
八一名が参加し、会場の体
育館内で森林の役割などに
ついて話を聞いた後、今回
の課題クラフトである時計
&カレンダーの作製にとり
かかりました。これは板の
半分が時計、残り半分がカ
レンダーとなるもので、作
製難易度の比較的高いクラ
フトですが、家族で協力し
て立派な作品を完成させて
いました。

九名が参加した遊歩道
ウォーキング班は、会場近
隣にある一般向けの展示林
として整備している人工林

オリジナル時計
& カレンダーできあがり



を散策しました。ここにはスギ・ヒノキ・カラマツなどが植栽されており、葉の形の違いや見分け方、遠目から見た時の違いなどを説明すると興味を惹かれてい

き、思ったよりも人の生活圏に近いところに野生動物が生息していることに驚いていました。当署も様々なところで森林教室などを開催し、折に

る様子でした。また、林内にある広葉樹の下で一休みしたときは、「癒やされる」、「涼しい」といった感想が漏れ、リラックアできたようでした。林内にはニホンジカに樹皮をはがされた木があったり、ニホンジカやカモシカのフンもあつたりとそこかしこに動物の痕跡を見ることがで

触れて森林の大切さや国有林のPRなどを行っていますが、今回のように参加者が実際に体験する広報活動の効果の大きさを実感するとともに、更に効果的にPRできるよう森林教室などの機会を上手に使って普及活動が続けていきたいと考えています。

遊歩道ウォーキング
(ニホンジカ被害の箇所)



架け替え用かずらの安定的確保と資源の育成のため、祖谷のかずら橋・架け替え資材確保実行委員会会長と「木の文化を支える森(祖谷のかずら橋・架け替え資材確保の森)づくり」の協定を結び、シラクチカズラ(マタタビ科和名サルナシ)の安定的確保のための様々



〈徳島森林管理署〉

祖谷のかずら橋の
取り組み

当署では、徳島県三好市西祖谷にある、国・県指定の重要有形民俗文化財「祖谷のかずら橋」及び同市東祖谷にある「奥祖谷二重かずら橋」の架

な取り組みを実施しています。

七月三日には、栗枝渡(くりしび)国有林内の面積〇.五ha、延長四〇〇mのシカ除けネット補修とシラクチカズラの苗木六〇本にヘキサチューブを設置する作業を実行委員会や地元ボ



シラクチカズラの苗木にヘキサチューブを取り付けているところ

ランティアとともに実施して使用されること、か
 しました。 七月一九日には、西祖 用意した挿し穂約七〇〇
 谷山村の「西祖谷ふれあ クチカズラは年々採取が 本を挿し木苗として作製
 い公園」において、実行 困難になっていること等 しました。一部の挿し木
 委員会一〇名 苗は観察のため、学校で 育てることにしており、
 と、西祖谷中 育てることにしており、 数年後に育成した苗木は
 学校生徒一四 国国有林に植え込まれるこ となります。
 名が参加し 今回、従来の方法に 加え、大苗の発根率の向
 て、シラクチ 上を目指すための新しい 試みの挿し木づくりも実
 カズラの挿し 施しました。
 木苗作りを行 当署としては、今後と
 いました。 も地域の重要な文化財で
 始めに、祖 ある祖谷のかずら橋を後
 谷のかずら橋 世に伝えていくため、国
 を見学した 有林のフィールドや技術
 後、挿し木作 的知見を活かして積極的
 りに挑みまし に支援していきたいと考
 た。本日の挿 えています。
 し木苗は、将 来かざら橋を 架け替えるた
 めの資材と



「シラクチカズラの挿し木苗」作製後の参加者の皆様

用意した挿し穂約七〇〇
 本を挿し木苗として作製
 しました。一部の挿し木
 苗は観察のため、学校で
 育てることにしており、
 数年後に育成した苗木は
 国国有林に植え込まれるこ
 となります。
 今回、従来の方法に
 加え、大苗の発根率の向
 上を目指すための新しい
 試みの挿し木づくりも実
 施しました。
 当署としては、今後と
 も地域の重要な文化財で
 ある祖谷のかずら橋を後
 世に伝えていくため、国
 有林のフィールドや技術
 的知見を活かして積極的
 に支援していきたいと考
 えています。

森林教室
「木工クラフト」を実施
 〈徳島森林管理署〉

七月二五日、徳島市の芝
 原児童館で小学生など三一
 名を対象とした森林教室
 「木工クラフト」を行いま
 した。子供たちが作製した
 のは、間伐材を使用した写
 真立てとカレンダー、カシ
 やサクラ材、ドングリを使
 用した動物マスコットなど



オリジナルカレンダーと写真立て完成、力作です

の飾りです。
 子供たちはまず写真立て
 と飾り用のマスコットを作
 りました。それらができあ
 がる、木の枝やドングリ
 などの木の实を使つて、自
 分の写真立てを思い思いに
 飾り付けていました。真夏
 の暑い盛りに実施したため
 か、マツボックリの種りん
 一枚一枚に色づけして花の
 ようにしたものや、ツバキ
 の果皮を椰子の木に見立て
 たものなど、夏つばさが感
 じられる飾りが見受けられ
 ました。
 写真立てが完成すると、
 それぞれカレンダーに移行
 していましたが、こちらは
 日付や月、曜日など一つ一
 つを作るため、字を書く色
 を一色に統一したり、反対

オリジナルカレンダー作成中



に沢山の色を使ってみたりとそれぞれの子の個性が強く反映されていたように思っています。

今回は実施時間が三時間と長めで、子供たちの集中力が続くかが気がかりだったのですが、ノコギリで枝を好みの長さに

切ったり、いろいろな木の実を貼り合わせて使ったりと、終始楽しそうにクラフトを製作していました。

た。その成果もあつてか、カラフルに色づけされたカレンダーや飾りが大きすぎて写真が見えない写真立てなど、立派な作品

が沢山できていました。

最近では自分で木を加工して利用することは少なくありませんでしたが、今回の森林教室がきっかけとなって、木に興味を持ったり、木を使ってみる機会が増えていくことを願っています。

グリーンアドベンチャー & クリーンハイキング
く 工石山自然休養林にてく
〈嶺北森林管理署〉

ながら良くする会」四名、高知県一名、四国森林管理局六名、当署から三名参加し、総勢二一名で実施しました。

主催者を代表して松本嶺北署長が、工石山自然休養林の説明や、本日の「グリーンアドベンチャー&クリーンハイキング」が最後まで楽しく、安全で終了するようにとの挨拶がありました。

グリーンアドベンチャー「この木何の木、名前あてゲーム」は、工石山山頂までの間に、一〜二四まで表示した樹木があり、その樹木の名前を当てるものです。最初に、二四本の樹木の名前とその葉の特徴等を詳細に書いた解答用紙を一

今回は、一般公募七名、「県民の森工石山を楽しむ



この葉っぱの特徴は、何か

一般参加者に配布後、登山開始です。

スタッフが講師となり、色々なヒントを与えて二四本用意されている樹木の名前を楽しく解き明かしていきます。参加者の小学生は、スタッフが、樹木の葉を数枚とってあげると、じっと観察してスタッフのヒントから、一本、一本名前が書いてある解答用紙に、

番号を記入して、「次はま
だ？」と、楽しそうに催
促していました。普段の
登山より、ゆったりとし
た早さでしたが、工石山
山頂には予定のお昼時間
に到着しました。
山頂からの下山では、高
知市の水瓶であり、鏡川の
源流点である、「サイの河
原」で、普段はなかなか、
姿を見せてくれない「オオ
ダイガハラサンショウウ
オ」も見ることができまし
た。その後、ヒノキ屏風岩
から高知市方面を眺望して
下山しました。

グリーンアドベンチャー&
クリーンハイキングの参加者



スには、ゴミが見当たら
ず、気持ち良く、無事に
終了いたしました。今後
も、このイベントを「県民
の森工石山を楽しみながら
良くする会」等関係者の皆
様や、より多くの県民の方
の協力を得て実施して行き
たいと思います。

「発電所見学と 親子木工教室」 〈安芸森林管理署〉

七月二十八日、四国電力
(株)安芸支店と共催で「発
電所見学と親子木工教室」
を実施しました。この企
画は毎年恒例となってお
り、水力発電所の見学及
び木工教室をとおして、日
頃利用している水や電気の
大切さと、水の源である森
林について学習し、環境保
全への理解を深めようと
いうもので、今回は小学生
の親子二〇人が参加しま
した。
午前中は伊尾木川水力
発電所を見学、午後から
は安芸森林管理署会議室

において木工教室を開催
しました。始めに森林の
「緑のダム」と言われる水
源涵養機能について、森
林には水を蓄えきれいに
する機能があり、普段使っ
ている水が森林の恵みで
できていることを説明し
ました。

その後、間伐材を使った、
鉛筆立て、壁掛け、本棚の
製作を行いました。子供た
ちは最初、組み立て作業に
苦労していましたが、保護
者と協力しながら作業を進
めて行くうちに、どんどん
上達していきました。また、
組み立てた木工品に木の枝
や実、パーツなどを使用し
子供らしい飾り付けを楽し
んでいました。
始めのうちは子どもたち

も遠慮がちでしたが、最後
には「また来年も参加した
い」「楽しかった」等の意
見も聞かれました。
木工を通じて物づくり
の楽しさや、森林に対す
る興味や関心を持っても
らうため、今後も継続し
て実施していきたいと思
います。



親子木工教室